

話題がいっぱい /
なかゆくい

市内各地で行われたイベントや、
まちの話題をお届けします。
ここで“なかゆくい”しませんか。
(なかゆくい=ひと休み)



市ホームページ「うらそえトピックス」
にも市内のできごとを紹介しています。



3/7 親子でイースターエッグを作ろう

浦添市国際交流協会 (UIRA) と国際交流員シェイ・ヤマグチさんによる「親子で学ぼう異文化体験～シェイさんと遊ぼう! イースターエッグ作り～」が浦添市ハーモニーセンターで行われました。

はじめにキリスト教のイースター(復活祭)について学んだ後、親子でイースターエッグ作りと英語を使ったミニゲームに挑戦しました。食紅とお酢で作った色水にゆで卵を浸して色付けし、シールや色ペンで彩るなどして子どもも大人も思い思いのオリジナルエッグを完成させました。

参加者は「とても楽しい。お酢で卵の殻に色付けできるのは初めて知った」と新たな発見に嬉しそうな表情を見せました。



2/27 コロナ時代の新たな防災を考える

東日本大震災から10年を振り返り、家族で避難所体験をしながら、コロナ禍の新たな防災について学ぶ講座が公民館で開かれました。

岩手と福島からの報告、市の防災危機管理室より提供された防災マップの説明、講師の稲垣暁氏からはコロナの感染予防のための避難所での距離の取り方、消毒・換気について話がありました。

家族と一緒に参加した中学生からは「コロナ時代に必要な防災グッズについて知ることができた。沖縄の伝統食『かちゅーゆー』や『アングンスー』が防災食になることがわかった」などの感想が寄せられました。



2/1～3/31 オリジナル弁当を食べて応援

市内飲食店の売り上げ回復を支援するため、飲食店のオリジナル弁当販売会が市役所玄関前広場で行われました。この販売会は、市が関係団体と連携して企画したもので、8店舗が参加し、それぞれ工夫を凝らした弁当を販売しました。

売り場は市役所を訪れた人や市職員でにぎわい、飲食店のグルメをお手頃価格で味わえる機会となりました。大好評で完売する店舗も多数あり、お店にとっても嬉しい取り組みとなりました。

購入した人は「行きたかったお店の弁当を食べることができた。いろいろなお店を1か所で楽しめるのも嬉しい」とランチタイムを楽しんでいました。



3/10 応援を力に 県勢初優勝!

輝くてだこ市民賞第49号の表彰式が行われ、中田果鈴さんと名嘉山魅さんに表彰状および記念品が授与されました。

2人が所属する沖縄ゴールデンハーツバトンチームは、昨年12月に開催された「2020年ジャパンカップ マーチングバンド・パントワリング全国大会」で、県勢初の優勝に輝きました。また、中田さんは中学生パントワリングの個人部門で3位という成績を収めました。

中田さんは「優勝したときは嬉しくて感謝の気持ちでいっぱいだった」と話し、名嘉山さんは「全体のミスも少なく、表現も上手くできた」と笑顔で話しました。



3/5 消防活動協力者へ感謝状

市内で発生した火災の初期消火を実施した事案2件と心肺停止状態に陥った人へ迅速な心肺蘇生法を行った事案2件の合計4件16人に浦添市消防本部から感謝状が贈られました。

卓球の休憩中に友人の容態急変を目の当たりにした石垣さんは「びっくりした。すぐに仲間を呼び応急処置をする人、消防へ連絡する人と役割分担して連携した」と話し、心臓マッサージを担当した佐竹さんは「助けたい一心で必死だった」と当時を振り返りました。どの事案も事前に消火に関する知識、装備の使用法を知っていたことや救急法講習を受けていた人がいたことで事態を最小限に抑えることができました。



2/21 せかいのおはなし会

浦添市立図書館で「そらとぶじゅうたんおはなし会スペシャル せかいのおはなし会」が行われました。JICA沖縄研修員のジョンさんが母国であるマラウイについて紹介し、『Dear Zoo』という動物がたくさん登場するしかけ絵本の読み聞かせをしました。また、参加者はジョンさんの母国語のチチェワ語でのあいさつや動物の読み方を学びました。初めて聞くチチェワ語に興味津々の様子で、読み聞かせに出てくる動物たちを楽しそうに呼んだり、あいさつの練習をしたりとても盛り上がりしました。

最後はみんなで「ありがとう」という意味の『Zikomo (じこも) !』を大きな声で伝えました。



2/17 中学生が考案! 浦添のおもしろお土産

まちづくりプラン助成金交付団体JOCA沖縄によるおもしろお土産試作品お披露目会が浦添グスク・ようどれ館で行われました。

JOCA沖縄を通して修学旅行の受け入れをしている仲間・前田地域のさらなる魅力発信のために、うちなーティーグみくじと浦添八景マグネット等のガチャガチャを開発しました。観光客と地元の人をつなげる役割や土産話のきっかけになればと願いが込められています。

開発に携わった生徒は「どんなお土産にするかを決めるのが大変だった。地域のことをどう伝えるかみんなと相談した。完成したガチャガチャを楽しんでほしい」と嬉しそうに話しました。